

為替週間展望 = ドル円は高値圏でのみみ合いから一段高か

[9月19日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		9月12日～9月16日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	142.53	144.96(14)	141.66(13)	143.51	+1.04
ユーロ・ドル	1.0055	1.0198(12)	0.9956(14)	0.9992	-0.0050

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	27,567.65	-647.10	日本10年債利回り	0.259	+0.006
ダウ平均株価	30,961.82	-1189.89	米10年債利回り	3.449	+0.139

<来週の主要経済統計等>

- 19日 英9月ライトムーブ住宅価格
カナダ8月鉱工業製品価格
エリザベス英女王の国葬
- 20日 日本8月消費者物価指数
中国最優遇貸出金利 (ローンプライムレート)
独8月生産者物価指数
ユーロ圏7月経常収支
カナダ8月消費者物価指数
米8月住宅着工・許可件数
- 21日 米8月中古住宅販売件数
米連邦公開市場委員会 (FOMC、20～21日) 政策金利発表
パウエルFRB議長記者会見
- 22日 NZ8月貿易収支
日銀金融政策決定会合 (21～22日) 金融政策発表
スイス銀行 (SNB) 政策金利
英中銀 (BOE) 政策金利
米新規失業保険申請件数、米第2四半期経常収支
米8月景気先行指数
- 23日 独9月製造業PMI速報値、独9月非製造業PMI速報値
ユーロ圏9月製造業PMI速報値、ユーロ圏9月非製造業PMI速報値
英9月製造業PMI速報値、英9月非製造業PMI速報値
カナダ7月小売売上高
米9月製造業PMI速報値、米9月サービス業PMI速報値

【前回のレビュー】13日に8月の米消費者物価指数の発表があり、市場予想と比べて伸びが急減速しない限りは、今月のFOMCでの大幅利上げは避けられないとみられる。その場合、ドルの底堅い動きは継続することとなって、ドル円は高値圏でもみ合いながらも上昇基調で推移するとした。

【米消費者物価指数が予想から上振れ】

注目された13日発表の8月の米消費者物価指数は、総合が前月比+0.1%となり、事前予想や前回は上回った。前年比は+8.3%となり、前回の+8.5%は下回ったものの、事前予想の+8.1%を上回った。コアは前月比+0.6%となり、事前予想や前回は上回った。コア前年比は+6.3%となり、こちらも事前予想や前回は上回った。

今回の米消費者物価指数の発表前は、インフレ率がピークアウトするとの観測が高ま

っていた。ところが米消費者物価指数が市場予想を上回ったことで、ピークアウト感が一気に後退した。米連邦準備制度理事会（F R B）が今後も積極的に利上げに動くとの見方から、米長期金利が上昇するとともにドル買いに傾いた。

米消費者物価指数の発表後にドル円は144円台後半まで上昇、ユーロドルは1.0180台から1.0000ドル割れまで急落した。13日の米国株式市場は積極的な利上げ継続への警戒感から、NYダウは1200ドル超の急落、ナスダックは5%超の下げとなった。

14日の東京時間には日銀がレートチェックに動いているとの一部報道から、為替介入への警戒感が台頭してドル円は144円台半ばから142円台半ばまでドル安円高が進んだ。実際にドル売り円買い介入に動くかどうかは不透明だが、一時的に急激な円安進行を食い止める効果は見られた。

20～21日の米連邦公開市場委員会（F O M C）では、13日の米消費者物価指数の発表までは0.75%の利上げがほぼ確実視されていた。米消費者物価指数の発表後は0.75%の利上げ確率が77%前後となり、それまでゼロ%だった1.00%の利上げ確率が23%前後に上昇している。

なお、19日の週はF O M C以外にも日銀金融政策決定会合、スイス中銀、英中銀（B O E）の金融政策会合が開催される各国中銀の集中ウイークとなっている。日銀以外は利上げが見込まれている。各国が利上げに動いて、日銀が緩和策を継続することになれば、円売りの動きが強まる可能性が高まりそうだ。

円が売られやすい地合いが続く中、政府や日銀の口先介入やレートチェックで、ドル円は高値から一時的に軟化する可能性はある。ただ、円売りの流れは継続して、ドル円はもみ合い一巡後には一段高となりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、141.00～148.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、20日に日本8月消費者物価指数、米8月住宅着工・許可件数、21日に米8月中古住宅販売件数、米連邦公開市場委員会（F O M C、20～21日）政策金利発表、パウエルF R B議長記者会見、22日に日銀金融政策決定会合（21～22日）金融政策発表、米新規失業保険申請件数、米第2四半期経常収支、米8月景気先行指数、23日に米9月製造業P M I速報値、米9月サービス業P M I速報値などがある。

【ユーロドルはもみ合いで推移か】

ユーロドルは欧州中央銀行（E C B）による大幅な利上げ継続観測などを背景に12日に1.0198近辺まで上昇を見せた。ただ、13日の強い米消費者物価指数を受けて、ドル買いの動きに傾き、1ユーロ＝1ドル（パリティ）を割り込んだ。

ユーロ圏ではインフレ率の高止まりが警戒されるものの、F R Bによる利上げ姿勢がE C Bよりも強いとみられるほか、欧州でのエネルギー供給への懸念などがユーロドルの上値を抑えている。ロシアから欧州へ天然ガスを送るパイプライン「ノルドストリーム1」の再開のめどは立っておらず、欧州経済の足かせとなる可能性がある。こうした状況下でユーロドルは一方向に動きにくく、引き続き1ユーロ＝1ドルのパリティを挟んだの振幅が見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは、0.9800～1.0100ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、19日に英9月ライトムーブ住宅価格、カナダ8月鉱工業製品価格、20日に中国最優遇貸出金利（ローンプライムレート）、独8月生産者物価指数、ユーロ圏7月経常収支、カナダ8月消費者物価指数、22日にNZ8月貿易収支、スイス銀行（S N B）政策金利、英中銀（B O E）政策金利、23日に独9月製造業P M I速報値、独9月非製造業P M I速報値、ユーロ圏9月製造業P M I速報値、ユーロ圏9月非製造業P M I速報値、英9月製造業P M I速報値、英9月非製造業P M I速報値、カナダ7月小売売上高などがある。

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。